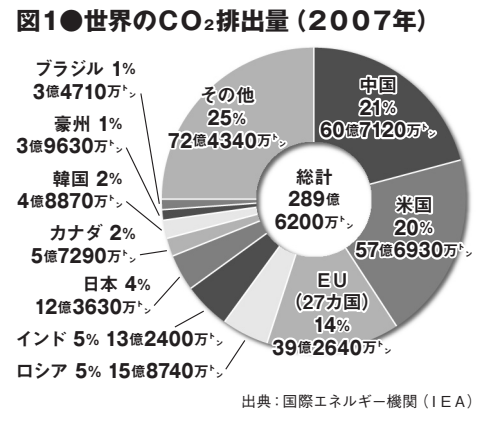


「ただ高い削減目標を掲げる」とは違うアプローチを

——今回COP15に参加して、どのような感想を抱きましたか？
藤沢 鳩山首相の掲げた25%という数字が、ほとんど話題にならなかったことに



衝撃を受けました。注目を集めたのは、中国と米国、世界の二酸化炭素(CO₂)排出量の約2割を占める2国ですから、当然です【図1】。日本の排出量は世界のわずか4%でしかなく、大きな削減目標も2国の前ではかすんでしまいました。そもそも今回のCOP15には、4つの対立軸の構図がありました。「京都議定書」の日本と欧州連合(EU)、「先進国」米国、「経済成長中の途上国」中国とインド。そして

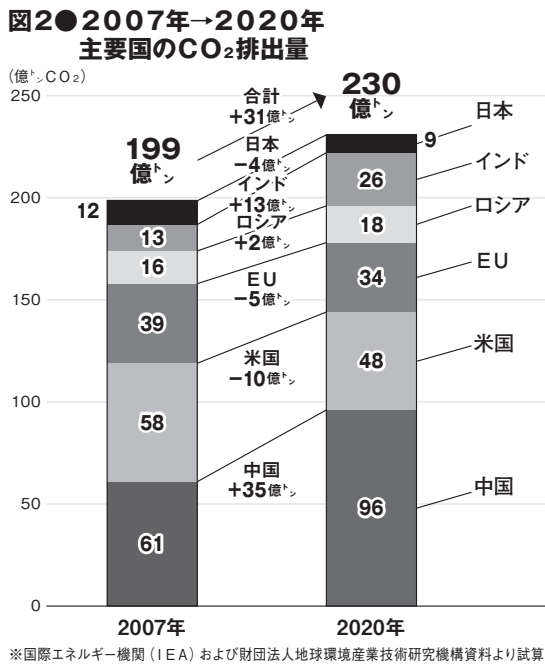


表1 ●主要排出国の中期目標

国	中期目標	90年比換算	05年比換算
中国	GDP当たりCO ₂ 排出量を05年比-40%~-45%	+327%~+366%	+88%~+105%
米国	05年比-17%	-3%	-17%
EU	90年比-20%~-30%	-20%~-30%	-14%~-25%
ロシア	90年比-20%~-25%	-20%~-25%	+17%~+25%
インド	GDP当たりCO ₂ 排出量を05年比-20%~-25%	+344%~+373%	+127%~+142%
日本	90年比-25%	-25%	-30%

出典：財団法人地球環境産業技術研究機構資料「世界各国の中期目標の分析」

——日本が掲げる「25%削減」については、どのように考えますか？
藤沢 主要国の削減目標を基に2020年のCO₂排出量を求めると07年より31億tも増えることが分かります【図2、表1】。中国が掲

げられないものかと思えます。鳩山首相が25%削減を表明して以来、さまざまな議論がされています。私には達成できないのではないか分かります。一方、たとえ日本が25%CO₂削減を達成しても、削減量は3億tにしかなりません。だから日本は頑張らなくてもいいという話にはなりません。国民が一丸となって努力して目標を達成しても、世界全体ではCO₂排出量が減る日本も評価が得られないのはおかしな話です。「ただ高い削減目標を掲げる」のではなく、もっと違ったアプローチ

——25%削減のために、日本でも排出量取引の導入を検討されています。
藤沢 排出量取引という言葉は聞いたことが、非常に危険だと感じました。ベースとなるものがない取引は非常に怖いのです。米国のサブプライムローン問題は土地や住宅を派生商品化したことで、大変なトラブルになりました。排出量取引はそのサブプライムローン以上に危険です。モーゲージ(借入)証券では、商品の安全性を説明するために統計学的に前提条件を出します。例えば「金利が何%変動する確率は90%です。この確率の範囲内では安全です」と。排出量取引も確率的根拠を排出率を決めて取り引きするわけですが、そこには何も実体はありません。そんな取引制度が世界中で検討されていることが、私には理解できませんでした。でも今回、COP15へ行っ

排出量取引はマネーゲーム化 日本は技術力で リーダーシップを発揮すべきです

昨年コペンハーゲンで行われた第15回国連気候変動枠組み条約締結国会議(COP15)では、「コペンハーゲン合意」で一定の方向性は示されたものの、鳩山由紀夫首相の主張する「すべての主要国が参加する公平かつ実効的な枠組み」の本格的な構築には至らなかった。COP15に参加して、厳しい国際交渉を目的の当たり前にしてきた藤沢久美さん(シンクタンク・ソフィアバンク副代表)に、国際交渉における日本の立場、排出量取引、日本の温暖化対策のあり方について聞いた。

ができないものかと思えます。鳩山首相が25%削減を表明して以来、さまざまな議論がされています。私には達成できないのではないか分かります。一方、たとえ日本が25%CO₂削減を達成しても、削減量は3億tにしかなりません。だから日本は頑張らなくてもいいという話にはなりません。国民が一丸となって努力して目標を達成しても、世界全体ではCO₂排出量が減る日本も評価が得られないのはおかしな話です。「ただ高い削減目標を掲げる」のではなく、もっと違ったアプローチ

1年半で総額50億(約6500億円)もの被害も出ています。世界が経済成長を続けるなら、エネルギーや鉄の消費は必ず増えていきます。排出量取引制度を行うのなら、排出枠の中でこれらの分野の位置づけをどう考えるか、国際的に明確にすべきです。また、排出量取引の世界的な導入には、統一された公正なルール、健全な情報提供、オンライン化などのインフラ整備といった準備が欠かせません。何より「市場ができる」ということは、プロカーなどという人たちが出てくるとい意味であり、その恩恵が見え隠れすること自体、世界の温暖化対策としてはおかしな話です。既に排出枠は先物取引のようになっており、個人投資家向けのファンドも出て、マネーゲーム化しています。海外プロカーは「日本の企業は最高のお客様」と言っています。

排出量取引はマネーゲーム化するリスク

EUという地域が成長するためのエンジンとして作られた市場なのです。そして短期的観点から潮流に乗り遅れまいとする国々が制度を検討しているのです。EU域内排出量取引制度(EU-ETS)を見ても問題は山積みです。第1フェーズでは排出枠がうまく設定できず、結局、大幅な値下がりがありました。第2フェーズを迎えた今は安定しています。が、次のCOPでルールが変われば、いつ暴落するかわかりません。EU-ETSに関する詐欺事件も多発し、過去

——もし排出量取引が導入されると、日本の企業はどうなるのでしょうか？
藤沢 国際的な排出量取引は企業にとってマイナス要因ばかりです。安定しない排出量価格は企業経営の大きなリスクとなります。また、取引引きには正確なCO₂排出量の計量が必要なので、会計監

日本のトップクラスの技術で リーダーシップを

——もし排出量取引が導入されると、日本の企業はどうなるのでしょうか？
藤沢 国際的な排出量取引は企業にとってマイナス要因ばかりです。安定しない排出量価格は企業経営の大きなリスクとなります。また、取引引きには正確なCO₂排出量の計量が必要なので、会計監

——排出量取引は先物取引のようになっており、個人投資家向けのファンドも出て、マネーゲーム化しています。海外プロカーは「日本の企業は最高のお客様」と言っています。COP15に行き、日本には長期的な視座が足りないと感じました。日本がリーダーシップを発揮するならば、温暖化対策の柱を委ねるべきです。実効性のあるCO₂削減に向けて「マネーゲーム」ではなく、「効率よくエネルギーを生かす」という方向に、国際的な流れを委ねてほしいと願います。

広告



藤沢久美氏

シンクタンク・ソフィアバンク 副代表
社会起業家フォーラム 副代表
法政大学専門職大学院 客員教授

ふじさわくみ◎国内外の投資運用会社を経て、1996年、日本初の投資信託評価会社を起業し、99年同社を世界的格付け会社スタンダード&プアーズ社に売却。2000年、シンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。現在、副代表。2003年には社会起業家フォーラム設立、副代表。2005年より、法政大学ビジネススクール客員教授も兼務。

私たちは地球温暖化の防止に積極的に取り組む決意です

- | | | | | | | |
|----------------|----------|-------------|-------------|-------------|--------------|------------|
| エルピーガス協会 | 石油化学工業協会 | セメント協会 | 日本アルミニウム協会 | 日本ガス協会 | 日本自動車販売協会連合会 | 日本鉄鋼連盟 |
| 塩ビ工業・環境協会 | 石油化学工業協会 | 全国石油商業組合連合会 | 日本LPガス協会 | 日本鋳業協会 | 日本製紙連合会 | 日本電機工業会 |
| 関西経済連合会 | 石油化学工業協会 | 鉄鋼スラグ協会 | 日本LPガス団体協議会 | 日本産業・医療ガス協会 | 日本ソーダ工業会 | 日本フェロアロイ協会 |
| 鋼管杭・鋼平板技術協会 | 石油化学工業協会 | 電気事業連合会 | 日本化学工業協会 | 日本自動車工業会 | 日本鋳鍛鋼会 | 普通鋼電炉工業会 |
| 情報通信ネットワーク産業協会 | 石油化学工業協会 | 電子情報技術産業協会 | 日本化学繊維協会 | 日本自動車車体工業会 | 日本鉄源協会 | |
| スチールハウス協会 | 石油化学工業協会 | | | | | |
| ステンレス協会 | 石油化学工業協会 | | | | | |